

DDS・分子イメージング・細胞生物学を駆使した 新規抗体DDS製剤の開発

7月15日開催

Zoomウェビナー

抗体医薬の臨床応用は著しく進展しており、抗体薬物複合体(ADC)や二重特異性抗体(BsAb)といった次世代抗体医薬の開発が加速しています。一方で、膵臓がんや膠芽腫などの難治性がんでは、腫瘍間質や血液脳関門(BBB)、血液脳腫瘍関門(BBTB)といったバリア機構が、抗体の腫瘍内送達を著しく妨げており、その攻略法が求められています。本セミナーでは、薬物送達システム(DDS)、分子イメージング、細胞生物学を融合させた抗体DDS製剤の開発戦略についてご紹介いただきます。

安永先生の研究室では、上述のバリア機構の可視化、さらにはそれを用いた抗がん剤の評価法を開発し、難治性がん克服の障壁となるバリアを突破する抗体の設計を行っています。また、質量分析計(MS)を用いた高精度な薬剤デリバリー評価系を用いて、基礎と臨床の橋渡し研究を可能にするプラットフォームの構築も進められているとのことで、抗がん剤開発の最前線を伺う機会となれば幸いです。

皆様の参加ご登録を心よりお待ちしております。

- 日 時 2025年7月15日 午後2時半～午後4時
- 開催方法 Zoom ウェビナー
- 申込方法 事前参加登録は右のQRコードからお願いします。
- 参加費用 無料



主催：川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター
お問い合わせ先：iconm-pr@kawasaki-net.ne.jp

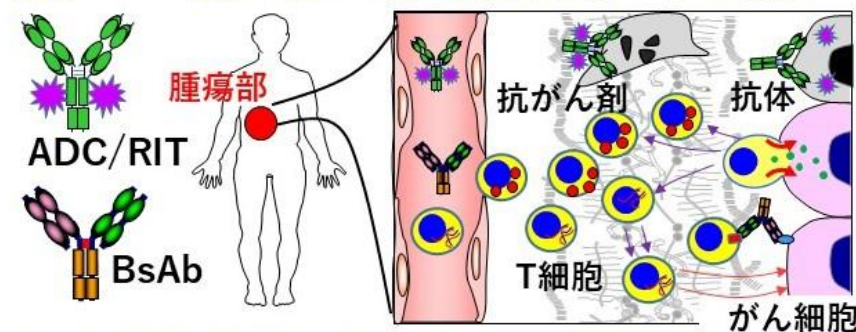
●演 者

安永 正浩 先生

国立がん研究センター 先端医療開発センター
新薬開発分野 分野長



抗体DDS：抗体・抗がん剤と免疫系細胞の時空間制御



サメ免疫系、脳デリバリー、新しいT細胞制御法への挑戦



https://www.ncc.go.jp/jp/epoc/division/developmental_therapeutics/kashiwa/members/020/index.html